

よごうしょう がっこう 四郷小 学校だより

第 26 号

令和3年 3月 1日

くろがねもち協議会・文部科学省表彰にあたって

「学校だより号外」でお知らせの通り、先日文部科学大臣より伊藤哲委員長とともに表彰状（写真上）をいただきました。第5回くろがねもち協議会で学校側より取り組みの成果等を委員の皆様にお伝えしましたが、



着実に表れています。ボランティア活動を例にすると、これまで四郷っ子のために読み聞かせや各種イベント、そして図書館環境整備をしていた図書ボランティアさんの読み聞かせは、今回朝の放送にて継続していただきました（写真

右）。放送委員もお昼の放送（写真左）で継続しています。図書委員は、おすすめ図書の紹介コーナー設置や図書ビンゴカードイベント等、コロナ禍の影響を受けながらも創意工夫しています。四郷っ子はボランティアさんの良い影響を受けているようです。他にも新刊図書を増やした等の結果、本年度は昨年度と比べ、2月段階で合計5,000冊以上貸し出し冊数が増え、一人当たり約10冊以上増えたこととなります。継続すれば、きっと読解力が少しずつ身についていくと思います。

これからもくろがねもち協議会とともに学校ビジョン達成に向け、取り組みを推進していきます。

行事の重要性：学び学級・特別支援学級学習発表会等

「ぱぴぷぺぽ～のピッピ！」の魔法の呪文でおなじみ、言葉の変身シリーズ第3弾は、2月19日にオンラインによる発表（写真上：練習）となりました。これまでの四日市市文化会館のホールと異なり、初体験は私たち教職員も同じで、子どもたちには舞台とは別のよい緊張感がありました。画面と控え用の教室・スタンバイ用の教室・発表教室と会場をいくつかに分け、ローテーションしながらの配置も見事で、本番、富洲原小学校と常磐小学校の3校間で立派に発表することができました。高学年は3回目の経験を生かしながら、2校の発表も楽しく鑑賞し、たくさんの温かい拍手を送りました。



1月28日の4年生二分の一成人式（写真下：本番）や先日の6年生を送る会（24日のリハーサル）も同様に、よい緊張感と達成感を感じることができると思います。今年度、全校集会での発表や異学年縦割り班交流ができなかったことは、下級生のお世話体験や上級生への憧れ体験ができなかったことを意味します。残念でしたが、それでも最小規模での異学年交流等工夫を凝らしてきました。あらためて学校行事の重要性を痛感した1年でした。



次年度学級編成数について

2月19日付けの三重県教育委員会からの指示「標準法における小学校第2学年編成標準の引下げに伴う新少人数学級研究指定校実施要項」によると、新3年生通常学級児童数72名が、35人学級編成の基準に該当する小学校として本校が対象（市内7校）になりました。新2年生は68名の

